

けんこう静岡

第166号

令和8年
(2026年)
7月1日(土)

季刊発行(1月、4月、7月、10月)

発行所
公益財団法人 静岡県予防医学協会

https://www.shsa.net/

(静岡事務所) 〒421-0111 静岡市駿河区丸子新田186-5 (054) 270-5177
(藤枝健診センター) 〒426-0053 藤枝市善左衛門2-11-5 (054) 636-6461
(総合健診センター) 〒426-8638 藤枝市善左衛門2-19-8 (054) 636-6460
(沼津事務所) 〒410-0011 沼津市岡宮1210-1 (055) 921-1934
(浜松健診センター) 〒435-0006 浜松市中央区下石町951 (053) 422-7800
編集 けんこう静岡編集委員会 印刷 池田屋印刷株式会社

静岡県のがん対策

― 予防と早期発見のための取組を中心に ―



静岡県健康福祉部医療局疾病対策課長 武田 篤人

はじめに

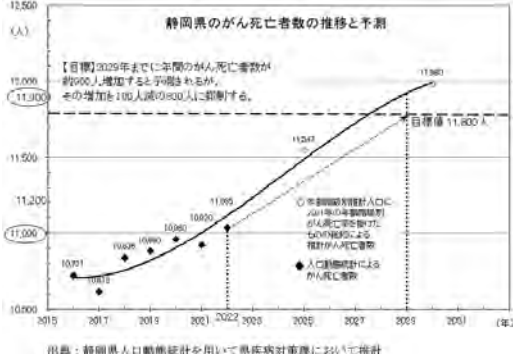
がんは、静岡県民の健康と暮らしに深く関わる重大な疾病です。令和4年(2022年)の静岡県におけるがん死亡者数は11,035人で、県民の死因の第1位となっており、高齢化の進行により、令和11年(2029年)には年間約11,900人が亡くなると見込まれています。

こうした現状を踏まえ、静岡県では、令和6年度からの6年間を計画期間とする「第4次静岡県がん対策推進計画」を策定し、がんの予防から早期発見、医療の提供、療養・生活支援、将来に向けた基盤整備までを一体的に進めています。

本稿では、これらの取組のうち、がんの予防と早期発見のための取組を中心に紹介します。

科学的根拠に基づくがん予防法(5+1)

日本人を対象としたこれまでの研究結果から、「たばこ」「お酒」「食生活」「身体活動」「体重」の5つの生活習慣に「感染」を加えた6つが、日本人のがんの発生に影響することが分かりました。そこで定められたのが、「日本人のためのがん予防法(5+1)」です。ある調査では、「たばこ」「お酒」「食生活」「身体活動」「体重」の5つについて好ましい生活習慣を実践した人は、何も実践しなかった又は1つのみ実践した人に比べて、男性で43%、女性で37%がんになるリスクが低かったと推計されました。詳しくは、WEBサイト「がん情報サービス」の「科学的根拠に基づくがん予防法」を御覧ください。



出典：静岡県人口動態統計を用いて県疾病対策課に2017年推計

学的根拠に基づくがん予防法」を御覧ください。たばこについては、男性のがん死亡の約40%、女性の約5%が喫煙に起因するとされています。肺がんでは特に影響が大きく、肺がん死亡のうち男性の約70%、女性の約20%が喫煙が原因とされており、また、受動喫煙により非喫煙者の肺がんリスクが約3割増加すると推定されています。県では、禁煙に関する知識の普及啓発、禁煙治療を行う医療機関や薬局の情報提供のほか、学校での喫煙防止教育や、公共施設の全面禁煙化等の受動喫煙を生じさせることのない環境整備に取り組んでいます。

また、胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、食道がん、肝臓がん等は、食生活及びその他生活習慣との関連が比較の明らかになっています。県では、食生活改善、適度な運動、適正体重の維持、飲酒に関する正しい知識の普及など、生活習慣の改善のための取組を総合的に進めています。

感染症については、県内には、B型・C型肝炎ウイルスの持続感染者が合わせて約10万人いると推計されており、県では、肝炎ウイルス検査の受検勧奨、陽性者の専門医への確実な受診勧奨、治療後の定期受診支援を進めています。また、子宮頸がんについては、発生原因の多くはHPV(ヒトパピローマウイルス)であるため、県はHPVワクチン接種に関する正しい情報提供を行っています。令和4年度から3年間の(原則)実施されたキャッチアップ接種では、対象者が接種の検討を確実に進めるためのワクチンに関する詳細な情報の県ホームページへの掲載や、商業施設等での接種啓発動画の放映のほか、大学や企業、経済団体等に直接訪問しての対象者への個別の情報提供を依頼するなど、啓発活動を強化しました。

がん検診による早期発見

早期発見には、がん検診が有効です。令和4年度の受診率は、胃がん43・2%、肺がん54・

4%、大腸がん48・3%、乳がん45・9%、子宮頸がん44・0%でした。県では、受診促進のため、市町や関係団体と連携し、個別通知による受診勧奨、休日検診や特定健診との同時実施などに取り組んでいます。令和7年度には新たに、乳がん検診促進の

キャンペーンを展開しました。具体的には、健康経営のための受診促進セミナーの開催、WEBへの広告掲出、駅構内での啓発イベント実施などのほか、乳がん検診受診者に抽せんでのホテル宿泊券等のプレゼントを行いました。令和8年度は、精密検査の重要性の周知を含め、がん検診全般について、より一層効果的な情報発信を実施していきます。

患者一人ひとりに合わせたがん医療の実現

がん医療では、患者

◇ 主ながんと生活習慣との関連についての疫学研究のまとめ

	全がん	胃がん	肺がん	大腸がん	乳がん	子宮頸がん	膵がん	肝臓がん	食道がん	膀胱がん	頭頸部がん
喫煙	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑		↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
受動喫煙			↑↑								
飲酒	↑↑	↑		↑↑	↑			↑↑	↑↑		
塩分		↑									
野菜果物不足									↑		
熱い飲食物									↑		
運動不足				↑							
肥満				↑	↑↑			↑			

出典：国立がん研究センター

↑↑：がん発生のリスクは確実に増加

↑：がん発生のリスクはほぼ確実に増加

(性別、閉経後等の条件付き↑↑を含む)

の年齢、がんの種類や進行度、生活背景に応じたきめ細かな医療が求められています。県内では、県立静岡がんセンターを中心としたがん診療連携体制の構築が進み、現在13のがん診療連携拠点病院等が整備されています。県では、医療機関間の連携強化、役割分担の明確化を進め、地域間の医療格差解消に取り組んでいます。

がん患者とその家族の安心できる暮らしの支援

がん対策においては、治療中、治療後に安心して生活を続けられるための支援も必要ことから、県では、がん患者とその家族の悩み・負担を和らげる基本的な緩和ケアを患者が望む場所で受けられる体制づくりを進めています。また、がん相談支援センターを中心とした相談体制の強化・周知、がん患者団体との協働によるピア・サポートの普及、がん医療と介護の連携のほか、静岡労働局や経済団体等との協働による地域一体となったがん患者等の就労支援などにも取り組んでいます。

将来につながるがん対策の基盤づくり

将来を見据えた対策として、ファルマバレーセンター、静岡がんセンター研究所を中心としたがん患者とその家族の視点に立った医薬品・医療機器等の研究開発を進めるとともに、その成果を国内だけでなくアジア諸国にも情報発信することによりアジアのがん医療にも貢献しています。また、急速に進歩し多様化するがん医療の様々な分野に必要な専門性の高い人材育成や、学校におけるがん教育の推進、デジタル技術を活用したがん医療の質の向上・情報提供にも取り組んでいます。

加えて、人口減少や高齢化が進む中でも適切ながん医療提供体制を維持できるよう、国・県指定病院等の医療連携の在り方、機能分担、集約化についても今後検討を進めていきます。

おわりに

がんの対策のためには、県民の皆様一人ひとりが、正しくがんを知り、予防や早期発見のための行動により御自身の健康を守っていただくことが大変重要です。

皆様におかれては、生活習慣の改善や検診の受診などに積極的に取り組んでいただきますようお願いいたします。

年一回は健康チェックを！

健康はあなたの財産です

すこやかな明日のために

人間ドック
脳ドック ものわすれドック

総合健診センター ヘルスポート

〒426-8638 藤枝市善左衛門 2-19-8

TEL 054-636-6460

FAX 054-636-6465

☎ 0120-39-6460

「けんこう静岡」は、当協会ホームページから見るができます。

https://www.shsa.net/ または「静岡県予防医学協会」で検索してください。